

C-79 日本人移住期後期女子の山形地区における皮膚色調の季節変化について  
東京家政大家政 木曾山かね 山形大教育 ○小関きみ  
東京家政大附属女子高 鈴木明次郎 東京家政大家政 雲田直子

目的 本研究は日本人青年女子の皮膚色調に関する、一連の研究につらなるものである。青年女子に移住する高校時代は、注目すべき色調を示すと考えられるので、1967年測定 of 東京地区、1972年の岡山地区に続き、山形地区における四季の皮膚色調の測定実験を行い、考察を行った。

方法 測定の方法は視感測定法によった。測定の時期は、春は1973年4月下旬、夏は同年6月上旬、秋は1972年10月中旬、冬は1973年2月中旬で、測定時の気温は、春は22°Cであり、夏は24°C、秋19°C、冬5°Cで、湿度は春65%、夏60.9%、秋60%、冬60%であった。照度は各季節とも450Luxより500Luxの間で実施した。被験者の年齢は15.16才で、人員は100名とと考えて実施したが、年間継続不能の者も出て、89名に止まった。被験者の家庭状況は商業、会社員、公務員等70.77%で、農業、漁業が29.21%であった。主従は農事、漁業には、従事していなかった。被服は、夏期半袖、秋冬春は長袖を着用していた。

結果 総体的にみると、5.0YRと7.5YRの系統の比較的に明度が高いが、彩度の高い者が多く、岡山地区に多くみられた彩度の低い色調は、ほとんどみられない。又岡山地区に比較的多くみられた2.5YRのピンク系統は、非常に少ない。東京、岡山に1人2人出現した10.0YRが、若干みうけられた。各季節間において、春は皮膚色調が明かるく夏は一層明かるみを増し、秋は明度が下がり、冬は明かるさが回復する。同地区の大学生より、明度の高い、彩度の低い色白の色調は少ない。